

株式会社 ジャスマック／誉田進学塾

て提案し、「教務力」で躍進!

2008（平成20）年より東進衛星予備校に加盟し、現在は千葉県内で8校舎を展開する（株）ジャスマック（誉田進学塾）。地域の生徒・保護者のニーズに応える事業展開を経営の軸とし、今年6月には千葉中央駅校と八千代緑が丘校を新規開校した。同社の経営・校舎運営の理念・方針や東進衛星予備校としての取り組みについて、代表取締役の清水貴氏、大学受験部副本部長 東進衛星予備校八千代緑が丘校校長の呉屋直哉氏にお聞きした。



ジャスマック（誉田進学塾）清水 貴 代表

やるからには東進1本！ 中途半端な導入はしない

「東進衛星予備校に加盟したのは、2008年3月です。それまでは誉田進学塾として小学生を対象に指導していましたが、高校部も開設してほしいという生徒・保護者の声もあり、事業展開を考える中で東進衛星予備校との出会いはありました。

実はその数年前から加盟の意思はあったのですが、良い物件がなく、開校まで時間がかかりました。しかし、その間に全国のような加盟校を視察させていただき、多くのことを学ぶことができました。その中で私が気づいたのが、うまく行っている加盟校には「コンテンツもオペレーションも東進1本」という共通点があること。

と。逆に言うと、自塾の高校部の機能や仕組みを残しつつ東進衛星予備校のコンテンツを取り入れて成功している事例はありませんでした。

そこで、「やるからには本気でやる。中途半端な導入はしない」と腹を括り、東進衛星予備校としてスタートを切りました。既存の塾部門とは切り離し、人材も新たに採用しました。その最初の一人が、呉屋です。基本方針を決めるのは私を含む経営陣ですが、あとは呉屋をはじめ現場に任せています」（清水氏）

「地域の子どものためにできることをやる」というのが、創業以来の私たちの変わらぬスタンスです。誉田進学塾としても東進衛星予備校としても、利益が上がりそうだからという理由だけで新規開校はしていません。大事なものは、自分たちの事業が地域の生徒や保護者に利益をもたらし、顧客満足度をいかに高めるかに注力した結果として、地域での評判が上がり、生徒も集まっています」（呉屋氏）

継続率の高さは顧客満足度の証 三者面談でのフォローがカギ!

「鎌取駅南口校が新年度継続部門全国1位になるなど、今では全国の東進衛星予備校加盟校の中でも高い継続率を誇る私たちですが、実は以前は継続ユニット率が低かったです。東進本部のエリアカウンセラーの方の助言をヒント

に、2年間をかけて方針転換をしていきました」（清水氏）

「継続に際して私たちが力を入れているのが、保護者会と三者面談です。保護者会では来年度のプランをお伝えしますが、その場だけのいい話をするのではなく、三者面談後もしっかりとフォローしています。面談では受講率や進捗、学習状況などを共有したうえで、このまま継続して通うことの意義をお伝えするようにしています。三者面談は、研修を受け検定に合格したスタッフだけが実施することができます。面談研修の内容は全体で共有されるので、スタッフ自身の意識が高まり、経験年数にかかわらずお互いにとって良い刺激になるという好循環が生まれています」（呉屋氏）

「大事にしているのは、顧客が望んでいないことではないこと。継続率は顧客満足度を表す数字としては重視していますが、継続率アップは目的ではなく結果です。普段から生徒や保護者との信頼関係ができていれば、



東進の優れたコンテンツを一人ひとりの生徒に合わせ

▶大学受験部副本部長 東進衛星予備校八千代緑が丘校校長 呉屋直哉氏（左）



まずと継続率は上がります。また、ここ数年は、私立に加えて公立中高一貫校に通う生徒が増えてきたこともあり、東進中学NETの活用も進んでいます。中学受験で合格してからも継続してうちで学び、高校（東進衛星予備校）につなげていく…という流れの運営を作っていくことが大事です。東進中学NETについてはまだまだ私たちの取り組みに改善の余地があると感じているので、東進本部とも連携しながら可能性を模索していきたいと考えています」（清水氏）

合格率の高さの秘訣は、先取り学習と過去問演習講座

「先の東進衛星予備校全国大会では、高校1、2年生の先取り学習に取り組みむ校舎として、鎌取駅南口校が紹介されました。高1生のうちに生徒の8割以上が数学Ⅱ・Bの学習を終えているのですが、私たちとしては特別なことをしているという認識はありません。というのも、受験本番から逆算して、いつまでに何をやるべきかを洗い出し、3年間を通してカリキュラムを組んでいるからです。先取

りは、合格に向けた学習の結果なのです」（呉屋氏）

（呉屋氏）

「旧帝大をはじめとした難関大学の入試は、教科書の内容を理解して問題が解けるだけでは太刀打ちできません。特に数学では、考える力や発想力が求められます。そうした力を身につける時間を高校3年生の早い段階で確保するためには、やはり高校1、2年生の段階で先取り学習しておくことが不可欠なのです。さらに先取り学習で早めにベースができてくると、「過去問演習講座」に早い段階で取り組むことができます。東進の受験対策演習コンテンツはどれも素晴らしいクオリティですが、中でも共通テストや大学別の過去問演習講座は受講必須。Aの機能が加わり、さらに良くなっています」（清水氏）



今年6月に開校した千葉中央校

「私たちの受験生の9割近くが共通テストの過去問演習講座に登録しています。志望校や併願校の過去問演習講座の受講も併用していますが、教務スタッフの指導と担任助手のアドバイスによって

生徒が自ら取り組み、高い実施率を維持しています。担任助手は全員、東進衛星予備校で育てきた卒業生です。自らの経験から、過去問演習



講座の活用方法をアドバイスしてくれるので、生徒もそれならばと受講するんです。担任助手の存在は、本当に大きいです」（呉屋氏）

塾にはまだ可能性がある！ 業界の発展に貢献したい

「東進本部から提供された素晴らしいコンテンツを、いかに目の前の生徒に合わせて提案できるか、という教務力が問われる仕事だと言っています。毎年のように新しいコンテンツが出てきているので、今後もしっかりと教材を研究し、生徒に最適なかたちで提案したいと思っています」（呉屋氏）

「塾は合格だけが目的の場ではありません。生きるために必要な力の中には、受験勉強を通して磨ける力、学校教育だけでは十分に伸ばすのが難しい力もあります。そうした力を生徒たちに身に付けさせ、かつ、結果も出すことで、塾は社会から求められる存在になり得るでしょう。少子化が進む今後も、まだまだ塾には可能性があります。業界の発展のためにも、今後業務に邁進していく所存です」



▲ウイルスや花粉を抑制する最新の空気清浄機



二酸化炭素濃度を測定して自動的に換気してくれる最新の空調設備を設置